

ふじのみや探検

第9号 富士山 動物編



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町 13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 富士山には、どんな動物がいるの？

ツキノワグマ・イノシシ・カモシカなど大きい動物から、キツネ・タヌキ・リス・ネズミ・ムササビ・モモンガ・コウモリなど、中くらいから小さい動物まで生息しています。朝霧の草原にはネズミなどが住み、富士山の原生林には、リスなどが木の実を食料にくらしています。ツキノワグマなどの大きい動物は、これらの小さい動物を食べています。このバランスが取れていると、動物の数は、大きく増えたり減ったりしません。

鳥の仲間、オオタカ・クマタカのような大きい鳥から、オオルリ・コルリのように美しい羽を持つ鳥もいます。また、アカゲラ・アオゲラのようにするどいくちばしで木にあなを開け、そこに住む鳥など、170種類ぐらいます。その中でヒバリは、市の鳥になっています。

モリアオガエルは、池や貯水池などに張り出した木の枝に、卵を産みます。みなさんが、葉に白いあわのような物を見つけたらそれは、モリアオガエルの卵です。そっとしておいて下さい。

チョウやバッタの仲間も富士山にはたくさん生息しています。黒と白の美しい羽を持つギフチョウは、アオイの葉に卵を産みます。春、一番先に、飛び立つことから、「春の女神」という美しい名前を持っています。

こんなたくさんの動物の生命をはぐくんでいる富士山。ここでくらす、幸せを感じます。

富士山のなかまたち -富士山の野生生物-



ひみつ2 富士山で一番強い動物はなに？

ツキノワグマです。おとなになると、体長180センチメートル、体重は150キログラムにもなります。君の体重の何倍かな？ 全身は黒い毛でおおわれていますが、首のところに白い三日月形の模様があり、ツキノワグマの名前の由来になっています。ツキノワグマが住んでいるということは、わたしたちの富士宮が、それだけ豊かな自然環境に恵まれているということです。

時々、新聞やテレビなどで、「熊が出たから注意してください」という報道があります。こわいですね。でも、本当はツキノワグマは、とっても臆病なのです。人と会いたくはないのです。だから、昼間は、洞くつや木の穴などに隠れて、夜行動します。でも、春や秋は、富士山に山菜・木の実・果実などが豊富にあるので、昼にも活動し、山から下りたりします。そんなとき、ツキノワグマが君と出会ってしまうんですね。どちらもびっくりしますね。でも、力は、圧倒的にツキノワグマのほうが強いのです。ですから、君が、山道を歩く時は鈴・ラジオなど音の出るものを身につけて鳴らしましょう。そうすれば、ほとんどの場合、ツキノワグマは、君に気づいて逃げていきます。

富士山のツキノワグマは、静岡県のレッドリスト（絶滅のおそれのある動物）に指定されています。

ことばの説明

- 由来・・・物事がいつから、今までどのように伝えられてきたかというわけ。
- 報道・・・じけん・でき事を調べて、新聞やテレビなどで、広く公表すること。
- 圧倒的・・・比べものにならないほど、ほかよりすぐれていること。



ツキノワグマ

ひみつ3 日本一高いところにすむ鳥はなに？

イワヒバリです。全長は18センチメートル、体重は40グラムくらいです。上半身の色は、灰色、下半身は、赤みがかった茶色です。首のあたりに白い斑点があるのがとくちょうです。名前のとおり、ヒバリの仲間ですね。

イワヒバリは、富士山のハイマツ林から山頂の岩場にかけて巣を作ります。溶岩のすき間に枯れ草やコケなどでおわんのように丸い巣を作ります。6、7月に3～4個の卵を産みます。

食べ物は、昆虫や節足動物、種子または、山小屋の残飯を食べることもあります。山小屋の近くにも現れて、あまり人を警戒しません。人なつっこいのかもれません。君が富士登山をするとき、出会えるといいですね。

鳴き声は、「チョッチョッチリリリ」とくり返しながら岩陰でさえずります。

ことばの説明

- 斑点・・・体の表面にまばらにちらばっている点。
- 節足動物・・・クモやムカデやエビ・カニなど体にふしを持っているなかま。
- 警戒・・・危険や災害にそなえて、あらかじめ準備しておくこと。



イワヒバリ

ひみつ4 オオムラサキは、富士山にいるの？

オオムラサキのオスは青^{あお}紫^{むらさきいろ}色の美しいチョウです。(メスは茶色をしています)今では、めずらしいチョウになってしまいました。でも、みなさんのおじいさん、おばあさんが、小学生だったころ、オオムラサキが飛びかうすがたは、日本中に見られました。

そのころは、あちこちに雑^{ぞう}木^き林^{ばやし}がありました。人々は、雑木林のエノキ・クヌギ・コナラなどを薪^{まき}や炭^{すみ}、落ち葉^{ひりょう}などを肥料として利用していました。ですから、雑木林は、大切に手入れされてきました。

雑木林は、たくさんの生き物にとっても住みやすい環境^{かんきょう}です。もちろんオオムラサキにとっても・・・

オオムラサキの幼虫(毛虫)は、エノキの葉を食べて成長します。チョウになると、樹^{じゅ}液^{えき}や花^{はな}のみつなどを吸^すいます。日本のあちこちに工場や住宅が建てられ、雑木林がなくなってくるにつれオオムラサキの姿も減^へってきました。

今、オオムラサキは、山梨^{かいし}県の甲斐^{ほくとし}市や北^{せいそく}杜^{そく}市の雑木林に生息しています。富士宮市の富士見小学校も、オオムラサキを飼^{しいく}育^{いく}しています。富士山のふもとにオオムラサキは、いるということです。

1957年(昭和32)オオムラサキは、国^{こく}蝶^{ちょう}に、指定^{しじ}されました。わたしたちは、オオムラサキが乱^{みだ}れ飛^とぶような、雑木林を守っていききたいものです。

ことばの説明

- 雑木林・・・自然に生えてきた林ではなくススキの原などを刈り、人々が、クヌギやコナラなどを植え、育ててきた林。
- 薪・・・雑木林から小さい枝を切り、ねんりょうとするもの。



オオムラサキ

まめ知識 ししどて 猪土手は、なぜ作られたの？

西富士中学校(上井出)を中心に北向きに半径2キロメートルの大きいコンパスで円を描きます。するとそれが猪土手のある位置になります。

では、猪土手とは何でしょう。実は、よく分かっていません。ただ土手は残っています。高さ50センチメートル、幅1~2メートル、長さは10キロメートルにもなります。いい伝えによると、1193年、源頼朝が、猪土手を築きここに猪^{いのしし}や鹿^{しか}などを追込み狩りをしたといわれています。有名な富士の巻^{まき}狩^{がり}です。50センチメートルの高さに土手を築くには、50センチメートルの穴をほらなくてはなりません。大変ですね。(あなは今埋まっていまい、ありません。)大勢^{せこ}の勢子に追われた動物たちは猪土手にさえぎられて鎌倉武士たちに狩られていったのでしょうか。

富士の巻狩から820年がたちました。この猪土手がいい伝えどおり、富士の巻狩に作られたとしたら、すばらしい遺産^{いさん}ですね。

ことばの説明

- 土手・・・土で積み上げ、いちだん高くしたつつみ。
- 勢子・・・狩のとき動物たちを追い出したり、一定の方向に追いつめたりする人。



飛べ！オオムラサキ！

BY Y.N



モリアオガエル



春の女神 ギフチョウ



ニホンカモシカ



市の鳥 ヒバリ

『第9・富士山 動物のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士宮の自然』 富士宮市 / フジ印刷 2005
- 2 『富士宮の野鳥』 富士宮市教育委員会 / 三扇美術 1992
- 3 『富士山自然大図鑑』 杉野孝雄 / 静岡新聞社 1994
- 4 『富士山麓の仲間たち』 中川雄三 / ギョウせい 1989
- 5 『富士山麓の野鳥』 富士宮市教育委員会 / フジ印刷 1995
- 6 『富士山麓豆百科』 御殿場市 / ナガハシ印刷 1997
- 7 『月刊ポプラディア - 富士山 - 』 坂井宏克 / ポプラ社 2009
- 8 『探鳥山ある記』 高橋節蔵 / 静岡新聞社 1984
- 9 『富士登山ハンドブック』 長谷川秀記 / 自由国民社 1991
- 10 『富士山総合環境保全指針』 静岡県 / 星光印刷 1996

